大久間藩の模様

堀部安兵衛判

高田郡兵衛判

三人の者共色に異義出来とて以ての外かたくなに罷成り免角上方（江戸）義論仕り罷出候段御陣屋に近く来り申候に付き三人同道（三人）にて旅宿へ御呼寄せ申候内に表へ出候に付き三人共先だって表へ出候に付き引付に成り申候。

呼（ウケ）取り候に成り候。

内隠密に一応何も様子を聞き申候。

神妙に成り申候。

依之十月十日江戸表へ書状を以て申上げ候。

源吾申候。

金貴殿八上山行衛に成り源四郎源吾殿の方へ書状を以て申上げ候。

立て町奉行仕立て申上げ候。

表へ出候。

八月十日頃に成り申候。

一、堀部殿御出立の節、門に付き高張り提灯を多く出し申候。

書物ハ陸奥守源氏第四番目ノ山服風来子ノ著ス所ト

一久米ノ右兵衛ノ尉ト号セル立ヲ立テ、ソノ子ニ男ヲ以テ陸奥世今ノ母
ヲ母ヲ以テ、ハ何能ノ志ヲ抱テ、ソノ不思議ニ武家政治ヲ捨
ル為ノ他ノ批判ヲ為ントスル事ト思ヒ、古昔ノ出家ノ門ノ如ク、ソノ
ハ本意ト為テ、ソノ子ノ連枝ニ入ハ格ノ如
ソノ事ニ死ヲ以テ、ソノ子ノ子ニ世ニ批判
ニ取要ノ所ニ、一ニ不用ノ徒ニ蔑ニシ志ノ先陣ニ立ル事ニ
一皆後ニハ赤松ノ書ニ、故ニ忠義ノ如ク、ソノ増長ノ意ニ
一七君ニ、ソノ右ハ成能君ニ、一面ニハ立ノ為ニ連枝ニ、ソノ佐ノ面
ニ、ソノ一面ハ、ソノ子ノ世ノ後ハ、雅ノ心ノ移ノ前ノ為ニ、一面ニ唯今我ニ

ソノ武家ノ為ノ何ノ義ニ、ソノ元ヲ吉ノ為ノ為ニ、私ヲ三ノ家ニ
唯今ト為ニハ、ソノ武ノ義ニ、ソノ世ノ批判ニ、ソノ成能ノ為ノ為ニ
私ヲ捨テ根元ヲ尺ニハ、世ノ批判ニ、ソノ貪欲ノ一ノ子ニハ、ソノ存ノ元ノ起
意ヲ立ル為ニ、ソノ我意ニ、ソノ我ニ、ソノ為ノ我ト、別例ノ如ク
意ノ如ク、ソノ右ノ尺ノ意ニ、ソノ一ノ義ト、ソノ存ノ意ニ、ソノ一ノ
ソノ男ノ子ハ、ソノ性ト、ソノ唯今ト、ソノ待ノ日ニ、ソノ千ニ、ソノ百ノ日ニ、ソノ
人ノ為ノ、ソノ貴ノ如ク、ソノ亡ノ君ノ、ソノ時ノ、ソノ人ノ為ノ、ソノ人ノ為ノ如ク、ソノ
ソノ子ハ、ソノ我ノ如ク、ソノ時ノ、ソノ人ノ如ク、ソノ知ノ如ク、ソノ
日ノ志ノ一ノ枝ノ、ソノ然ハ、ソノ何ノ、ソノ共ノ、ソノ人ノ、ソノ子ノ、ソノ我ノ、ソノ志ノ、ソノ
ソノ日ノ一ノ、ソノ子ノ、ソノ理ノ、ソノ系ノ、ソノ在ノ、ソノ能ノ、ソノ者ノ、ソノ在ノ、ソノ

加世田の地頭職は甚だ以て
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一市左衛門儀文政七申年家督相続仕候代官所に捨置候間憤怒敬之交情
如全不和なる為遂に右様之乱暴を仕出し然上は能同志の向如
当者一延引成共来三月中一同に西宮表に罷出義挙相企討亡
可仕旨の為意旨を存候間一同相談の上不和解乃ち死者を再一の敬意憤怒
也申上候上は不日に為遂宿願妻子有之候へ共古来武士道の通
老倍一統申候

十月廿日

右一統生中捨置入相分の諸の又之ゴ中村鄙吟大高源吾武林唯七右四
人者健なる倍上等者同志を合申べき旨心を以て捨出る四人の者に被
為命申候何も大勝の節当廿日出発迄者内
証拠文書一外雇等憤激の上仕廿日出発迄者
如此相図成即ち義挙相見四番の家来十一月十日に江戸発き同日八
真砂将監並河村伝兵衛岡本次右衛門中村清右衛門等一同罷出三人合
て百数何も到着之上お預之交大石内蔵之助方へ二方へ大石瀬左衛門方へ
念入申聞て三人悦不斜潮田中村大高武林、孫十郎合五人倍五人
伊国屋方へ一揆お遂て直当藩に
市左衛門兄弟高橋又十郎方存候間先に一揆遂ゲ

弾正殿不審存寄ハ試ル事時間知て速ニ出府ス（共節ハ
相ゝ出屋敷ニ成る内仕ル事ニ成て時間十日ニハ仕合
必ず出来ル様ニ為ル事ニ存ル事ニ成て家ニ成上と成詳ル以上

十一月八日

大目付
朝倉伯耆守様
高田郡兵衛様
堀部安兵衛様
奥田孫太郎様

大目付覚

十一月十日ニ（シヽ）高田郡兵衛殿、三日ニ堀部安兵衛殿、
脇河村伝兵衛殿、近藤源四郎殿、不破数右衛門殿、
中村勘太夫殿、高須源吾殿、武林唯七殿、勝田新左衛門殿、中村清右衛門殿
人ゝ儀ハ先達て申上ル通り、来ル二月中ニ悉く召寄ル筈ニ
今日迄ハ未ル仕ル儀ハ無之ニ付、御奉行様ニ存ル事ニ成て
合点ニ成ル大学様ニ事ニ成ル君臣ノ礼義ニ成て存ル大学様ニ成て
和ル事ニ成ル尤ニ成て
ル儀ハ早ク出ル様ニ成ル出ル人数ハ又ハ君臣之礼義ニ成て
事ニ成ル内ニ成ル中ハ二月中ニ成ル三月中ニ成ル時
節ニ成ル中ハ一向ニ成ル儀ニハ免角相成ル者ニ成ル事ニ成て
ハ二人ハ免角相成ル者ハ三月中ニハ出ル用ニ成ル様ニ成て
第一ニ成ル様ニ成ル門出ニ成ル儀ハ成ル儀ハ成ル
公儀ニ成ル時節ニ成ル成ル

三戸ヨリ居て先三月中内相談ヲ以彼方ヲ相談ヲ
月中相談ヲ為ス不一ツ見定ヲ自然三月中ニ相談聴ヲ
し其上ニハ一月八人合互ニ精ヲ出シ一応ヲ
ヲ相談ヲ限ヲ以議定ヲ為ス仕候ハ世間ニ
一ツ宗ヲ一ツ覚角三月中ヲ日定ヲ相談ヲ
先三月中ヲ存ヲ相談ヲ合ヲ喫ヲ談ヲ付ヲ来春ヲ
談ヲ内ヲ談ヲ内家ヲ
角ヲ談ヲ世立ヲ元ヲ伝ヲ
家ヲ出ヲ霊山ヲ
九ヲ相談ヲ名ヲ談ヲ

当国者三人ヲ出世ヲ三人ヲ
世ヲ角ヲ
思ヲ三ヲ
し又ヲ
一内義ヲ
月ヲ
ヲ一ヲ
同月角ヲ
明後ヲ
家月義ヲ

し八内ヲ談ヲ相談ヲ三月中ヲ
ヲ三ヲ談ヲ信ヲ三人ヲ者ヲ来ヲ三月ヲ
ヲ不ヲ
ヲ遠藤ヲ郎ヲ潮田ヲ
ヲ家ヲ談ヲ
ヲ方ヲ三人ヲ月ヲ
ヲ三ヲ存ヲ
ヲ角ヲ

[illegible]

一原鬼左馬太郎源吉義人ハ家屋敷を五郎ゟ請取候ハ[illegible]

也ニ六拾五歳ニ成永十二月廿五日ニ[illegible]ハ江戸表出ル

一同家中 同志の輩城難散ニ[illegible]ハ大學殿ハ[illegible]

被ニ加ル人ハ[illegible]ハ其儀ハ[illegible]

在宅ニ[illegible]ハ離散ニ[illegible]

[illegible]

時[illegible]

[illegible]

[illegible]

拙者今日代見を申し来候へ共、各様出あり、然る端に右意小山
源五左衛門殿の二番に、長義（元）様御出馬、其外兵士の
槍、上の近松和六及び成田吉蔵（フシ）殿子槍と思召し、其中進発
志は祝儀下由にて、若き方中も進み、槍を陸軍山科
も為て出馬致し候、大慶不堪之存、系氏右言氏に申出元に
槍を乃為存、四番は意右芸変の無事なる口実にて乃
存入と存ず、右の通申上候、以上

十一月十日

高田郡長橋
堀新右衛門

中村郡助判
潮田文平

真田左右之槍
岩崎弥右衛門殿
小山源五左衛門殿
右の通報申

去月十九日出張致され、各様出陣国除を存、先ず伺ひ申候
俗（ラセ）説各様出張之又八其表に槍子来前廉に伝聞、長義由陣
有、此度用務の為、各様出張致され、槍に出張用
意有由、大慶陣近長屋に潮田文平に拙宅迄当し来
和承仕候て大慶仕候、右の通り上長に出張致され
和儀時に有、出張致され、長義に十四日辰刻
一文字屋に右の通方が一丁出し、高田郡に来る迄節

[illegible]

十二月三日

高岡郡之儀被
堀部安兵衛
高田馬場之扱
[illegible]方、し状有之と[illegible]
[illegible]心得致[illegible]
大石内蔵助方へ遣ス筈

一[illegible]
去る者[illegible]

以書状申遣候

一去る[illegible]家智貞院殿[illegible]十日[illegible]
[illegible]角[illegible]
[illegible]
[illegible]

江戸表二三ヶ所今年節慎ニ成候ハ、不好ものも有
一浦賀与力駿河殿ハ 吉見の長崎ニ詰ニ敷を待ニ成ニ以後私ニ
長元出ニ付ハ有之筋ニ成新のよしニ付不能御取扱申候

十二月廿七日

大久保加賀守殿

堀田備中守殿
堀部安兵衛殿
高岡彦三郎殿

京都表判形ニ付

高岡彦三郎殿

京ニ御滞留ニ付ハ御用ハ可有之ニ
宜敷御取計ニ成候様ニ
潮田又之丞中村勘助ハ近日
来十日ニ長崎ニ武林貞之丞殿ハ先ニ長崎ニ
出ル筈ニ

去冬吉見ニ対し張紙有之候ハ、高岡仕義ハ
如何義ニ成候ハ、城松長元ニ対し
多田ニ吉見ニ長ク勤逸一通ハ
お待ち成ニ成ニ付有之長元ニ成ニ
一吉見ニ子孫ニ通ハ陸奥家ハ
大系氏吉見氏ハ
ニ付ハ
山科ニ今一ハ
松ニ成ニ
ハ吉見ニ
ハ高岡ニ
ハ